

Accuphase

PRECISION MDS D DIGITAL PROCESSOR

プレジジョン MDS D デジタル・プロセッサー

DC-950

取扱説明書



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
 ございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

DC-950の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード(保証書発行はがき)」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内)にご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは22ページをご参照ください。

*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.



マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。



警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。



注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

HS-LINKはアキュフェーズ株式会社の登録商標です。

付属品をご確認ください

- | | |
|-----------------------------|-------------------------------------|
| ● 取扱説明書(本書)..... 1冊 | ● プラグ付きオーディオケーブル(1m)(ASL-10) ... 1組 |
| ● 安全上のご注意 1冊 | ● AC電源コード(2m)(APL-1) 1本 |
| ● お客様情報の取扱いについて 1枚 | ● USBユーティリティCD..... 1枚 |
| ● お客様カード(保証書発行はがき) 1枚 | ● USBユーティリティ・セットアップガイド 1枚 |
| ● 目隠しシール 1枚 | ● クリーニングクロス 1枚 |

目 次

付属品をご確認ください 表紙裏頁
 HS-LINK Ver.2について 1
 お手入れ 1

1. 安全上必ずお守りください 2

▲警告 2
 ▲注意 2

2. 接続図 3

3. 各部の名前 4

フロントパネル、リアパネル 4

4. 各部の動作説明 5~10

1 POWER—電源スイッチ 5
 2 入力セレクター 5
 3 LEVEL—出力レベル調整ボタン 5
 4 リモート・センサー 5
 5 ディスプレイ部 6
 6 DIGITAL INPUTS—デジタル入力端子 7
 7 ANALOG OUTPUTS—アナログ出力端子 8
 8 DIGITAL OUTPUTS—デジタル出力端子 8
 9 BALANCED CONNECTION—
 バランス出力端子の極性切替スイッチ 9
 10 AC電源コネクター 9
 リモート・コマンダー RC-120 10
 リモート・コマンダー RC-120による動作をON/OFF 10

5. 入力ソースの選択 11

6. 接続方法 12~16

DP-950(SA-CD/CD)の演奏 12
 HS-LINKケーブルの接続 12
 CDなどをデジタル入力で演奏 13
 DG-58のデジタル接続例 14
 DG-58のアナログ接続例 15
 さらにDF-65を接続する場合 15
 デジタル・レコーダーでの録音・再生の接続例 16

7. 保証特性 17

8. 特性グラフ 18

9. MDSD方式のブロック・ダイアグラム 19

10. ブロック・ダイアグラム 20

11. 故障かな？と思われるときは 21

12. アフターサービスについて 22

HS-LINK Ver.2について

HS-LINK Ver.2はサンプリング周波数と量子化ビット数を大幅に拡張し、5.6448MHz/1bit 2ch DSDおよび352.8kHz、384kHz/32bit 2ch PCMに対応したHS-LINKの上位規格です。

- DP-950、DC-950、DC-37はHS-LINK Ver.2対応のため、HS-LINK (Ver.1)、HS-LINK Ver.2両信号の再生が可能です。
- HS-LINK (Ver.1)およびHS-LINK Ver.2はHS-LINKケーブルで再生可能です。

	HS-LINK (Ver.1)	HS-LINK Ver.2
サンプリング周波数/ビット数	32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、 176.4kHz、192kHz/ 16~24bit 2ch PCM 2.8224MHz/1bit 2ch DSD	32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、 176.4kHz、192kHz、 352.8kHz、384kHz/16~32bit 2ch PCM 2.8224MHz、5.6448MHz/1bit 2ch DSD

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには付属のクロスを使用してください。特にウッド・キャビネットの場合には、表面を傷つけることなく、きれいに拭き取ることができます。
- 付属のクロスは、洗濯して繰り返し使用できます。洗剤で洗濯後は、よく水洗いし乾いた状態でご使用ください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。

1. 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- むれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしなない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上がり、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨がかかる場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。

■ウッド・キャビネットやボトム・プレート(底板)は絶対にはずさない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落したり、破損した場合。

* 上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにしただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

* 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



■設置場所について。

必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所
- 極端に寒い所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避けてください。

チューナーやテレビ、DVDレコーダー等から離して設置する。

- 近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
- アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

■電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。

■長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実に行なってください。

- 特に、RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(一)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。
- 電源を入れた状態で光ファイバーを抜き差しするとショック・ノイズを発生する場合があります。

■音量の調整について

SA-CDは、可聴帯域を超える高域成分の出力が可能です。音が出ていないときでも、不用意に音量を上げると、ノイズが出たり、思わぬ大音量が出て、アンプやスピーカーを破損する場合があります。

演奏を始める前は、大音量にならないように必ず音量を小さくしておいてください。

■HS-LINKケーブルの接続

HS-LINKの接続は、HS-LINKを装備しているオーディオ機器にHS-LINKケーブルで入力してください。

- 必ず付属(または当社別売)のHS-LINKケーブルを使用してください。
- 誤ってコンピューターのLAN等に接続すると、それぞれの機器やシステムを壊すおそれがあります。

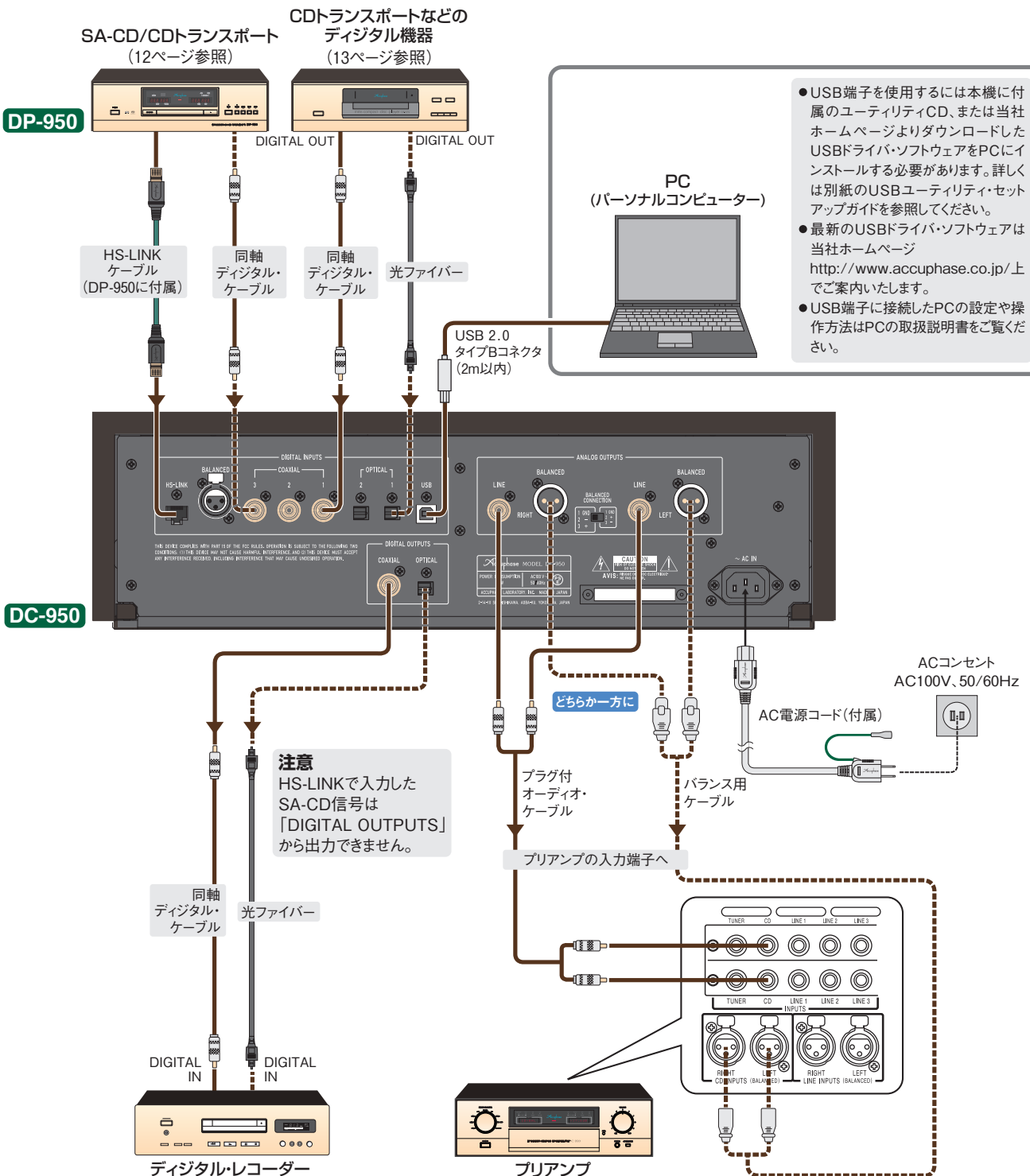
2. 接続図

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

安全上必ず
お守りください

接続
図

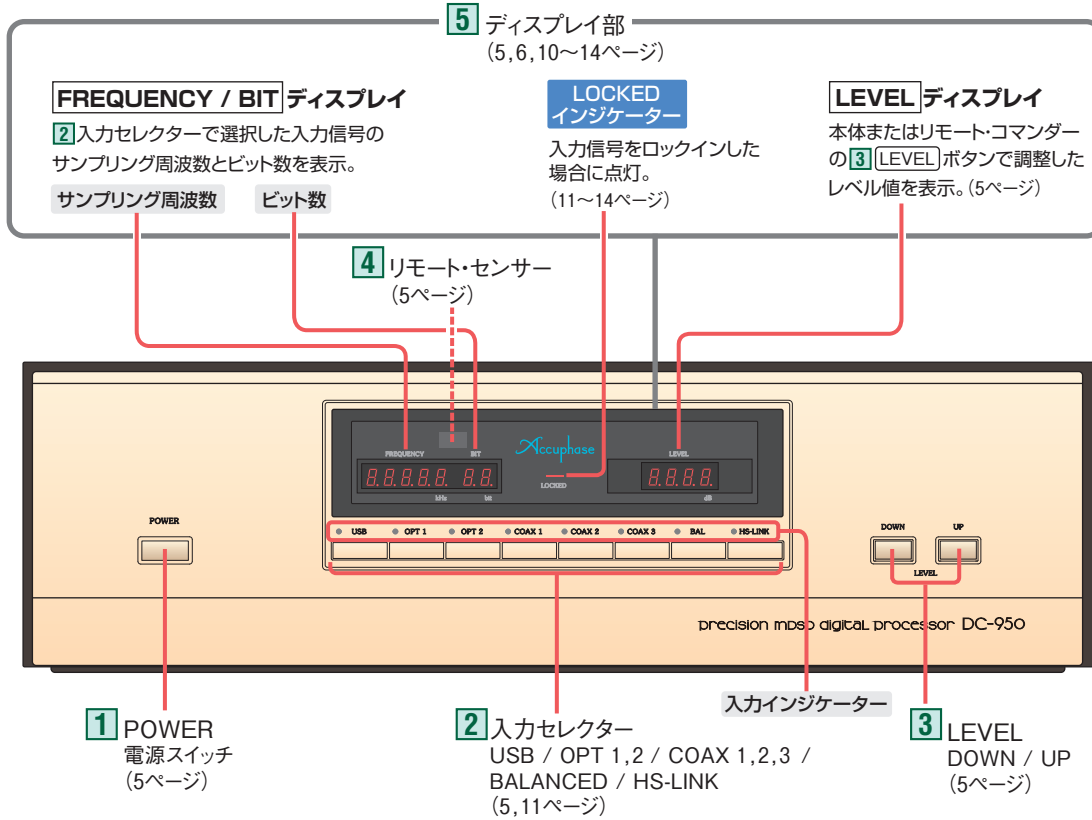
- 注意**
- DP-950との接続には、HS-LINKケーブル(SA-CD/CDの伝送)または75Ω同軸ケーブル(CDのみの伝送)を使用します。
 - DP-950のSA-CD信号はデジタル録音できません。
 - デジタル機器との接続には、HS-LINKケーブル、75Ω同軸デジタルケーブル、光ファイバー、デジタル・バランスケーブル(特性インピーダンス 110Ω)などを使用します。
 - アナログ出力の接続には、プラグ付オーディオケーブルを使用し、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しくつないでください。
 - アナログ出力のバランス用とライン用ケーブルは同時に接続しないでください。アースグループになって、ノイズを発生させる原因となります。



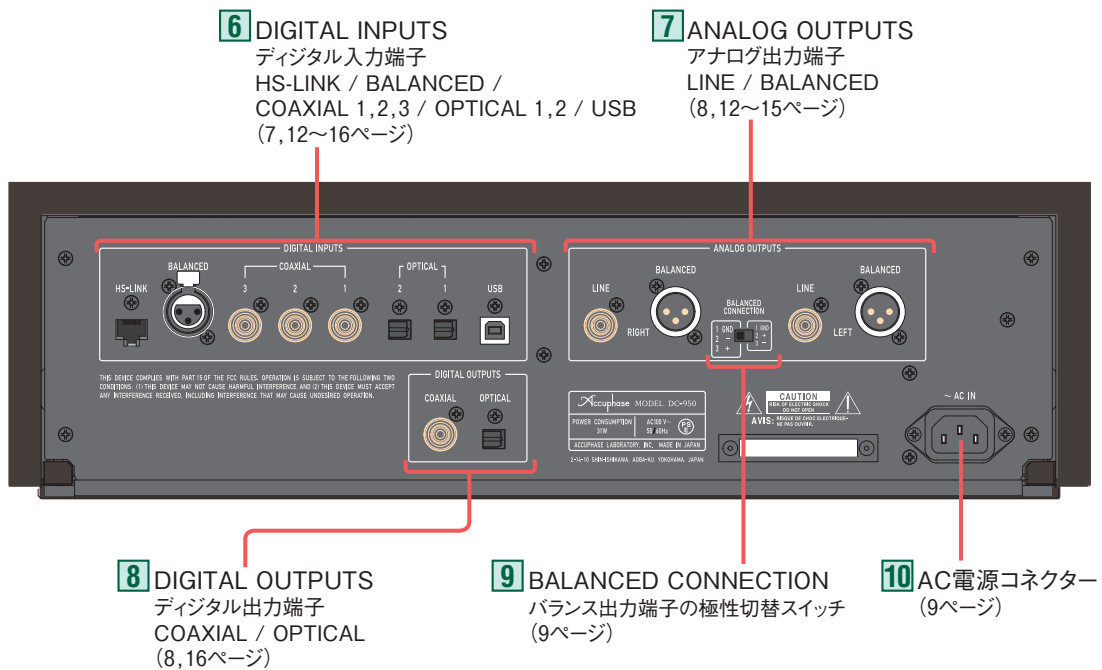
3. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)

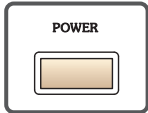


端子の表記と略号について

- OPTICAL : OPT
 - COAXIAL : COAX
- これらはそれぞれ同じ意味として扱っています。

4. 各部の動作説明

1 POWER — 電源スイッチ



押すと電源が入ります。

再び押すと切れます。

電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

- 電源スイッチをOFFにしても、それまでに選択/設定された機能は記憶されます。 **入力セクター** **LEVEL**
- 電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしないでください。

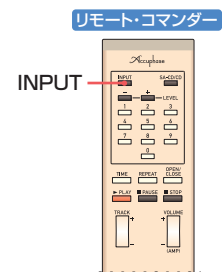
2 入力セクター

リアパネルの **6** デジタル入力端子に入力した信号を各ボタンを押して選択します。

選択した入力のインジケータが点灯します。(11ページ)

リモート・コマンダー RC-120(DP-950に付属)の **INPUT** ボタンでも、同様に選択可能です。

詳しい説明は10, 11ページ参照。

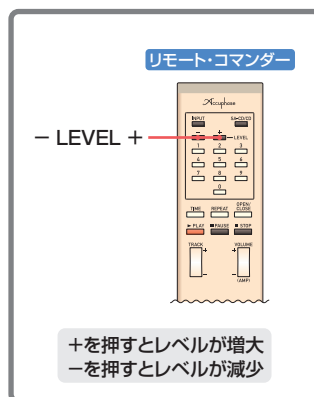
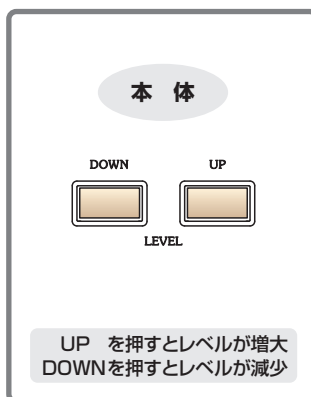


3 LEVEL — 出力レベル調整ボタン

アナログ出力のレベル調整をします。

デジタル方式により、0dB～-80dBの可変ができます。

リモート・コマンダー RC-120(DP-950に付属)でも同様の動作が可能です。



レベルの変化量とディスプレイ表示			
0.0	～	- 8.0	0.1dBステップ
- 8.0	～	- 30.0	0.2dBステップ
- 30.0	～	- 50.0	0.5dBステップ
- 50.0	～	- 60.0	1.0dBステップ
- 60.0	～	- 72.0	2.0dBステップ
- 72.0	～	- 75.0	3.0dBステップ
- 75.0	～	- 80.0	5.0dBステップ

4 リモート・センサー

DP-950に付属のリモート・コマンダーRC-120の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください。

2 入力セクター、**3** LEVEL のコントロールが可能

5 ディスプレイ部

FREQUENCY / BIT

2 入力セクターで選択した入力ソース(端子)のサンプリング周波数とビット数を表示します。

LEVEL

3 LEVELボタンでコントロールするレベルを数字で表示します。

FREQUENCY / サンプリング周波数の表示例

●ロックインした入力の、サンプリング周波数(kHz)を表示します。

リニアPCM

32.0 kHz 44.1 kHz

48.0 kHz 88.2 kHz

96.0 kHz 176.4 kHz

192.0 kHz 352.8 kHz

384.0 kHz

1bit DSD

2822.4 kHz

5644.8 kHz

11289 kHz

BIT / ビット数の表示例

●DACに入力された実際のビット数を1ビット単位で表示します。

リニアPCM

0 bit

データがないとき

⋮

16 bit

16ビット

⋮

⋮

24 bit

24ビット

⋮

⋮

32 bit

32ビット

1bit DSD

1 bit

1ビット

*1ビット以外の表示はありません。

レベルの変化量とディスプレイ表示

●アナログ出力の減衰量を表示し、減衰量が小さくなる程(音量が大きくなる)ステップを細かく調整できます。

音量最大 0.1dBステップ

0.0 dB -8.0 dB

0.2dBステップ

-8.0 dB -30.0 dB

0.5dBステップ

-30.0 dB -50.0 dB

1.0dBステップ

-50.0 dB -60.0 dB

2.0dBステップ

-60.0 dB -72.0 dB

3.0dBステップ

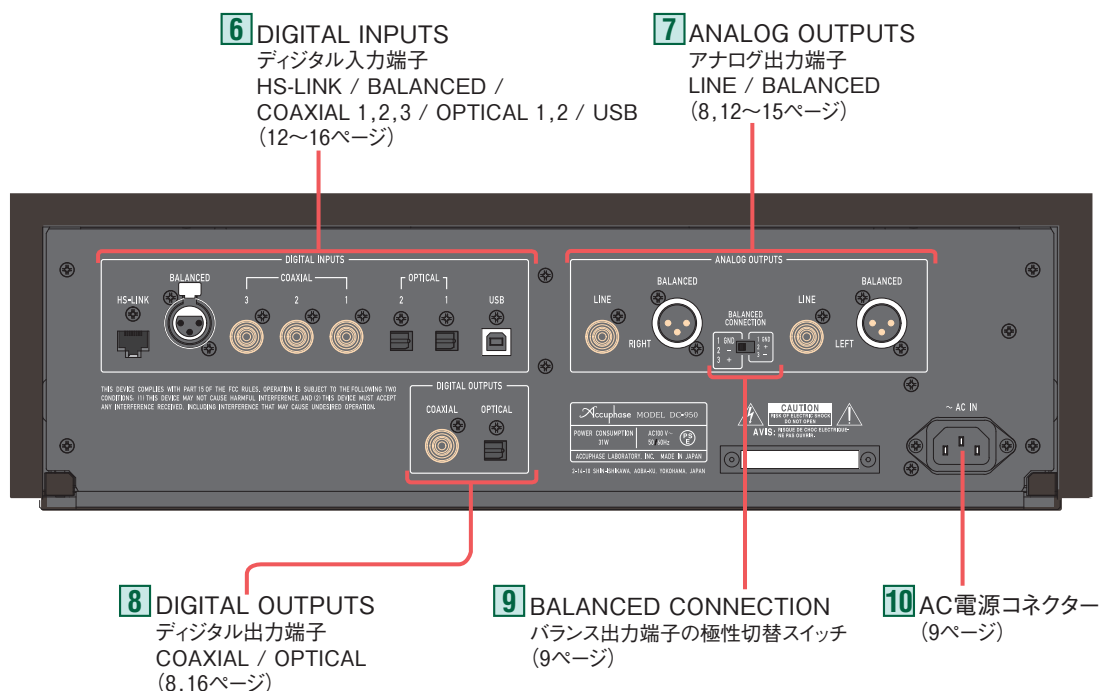
-72.0 dB -75.0 dB

5.0dBステップ

-75.0 dB -80.0 dB

音量最少

*絞り切る(無音)ことはできません。

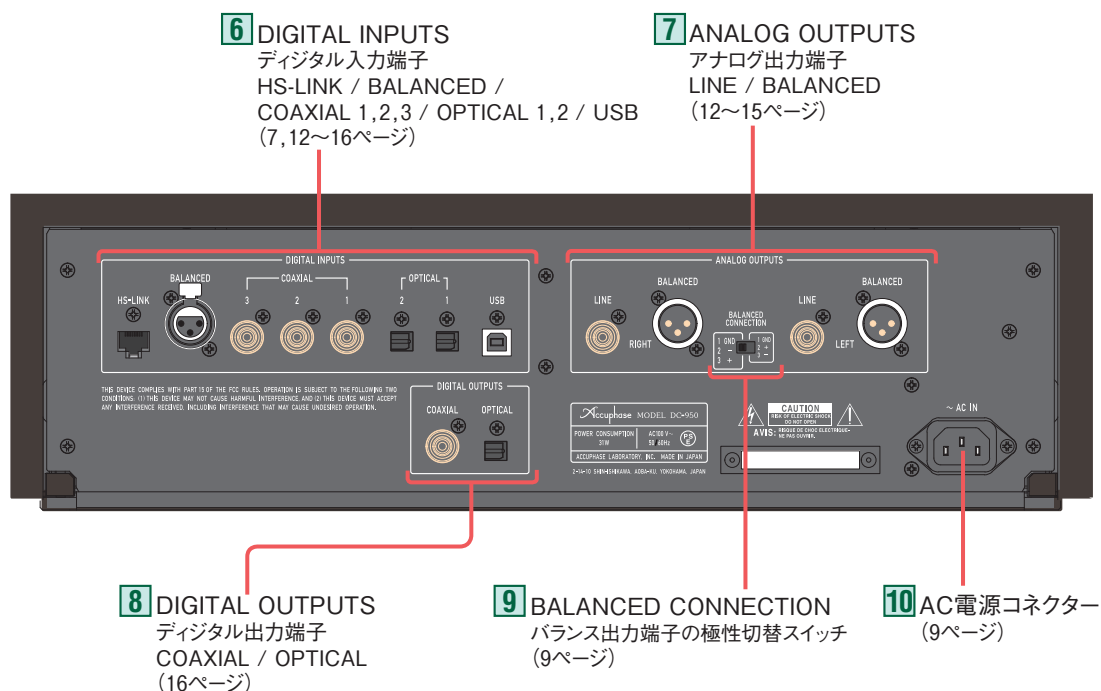
リアパネル(後面)**6** DIGITAL INPUTS — デジタル入力端子

デジタル信号を各種接続ケーブルで入力することができます。

- **HS-LINK**…………… HS-LINKケーブル
(HS-LINK Ver.2) 32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
1ページ参照 192kHz、352.8kHz、384kHz (各16~32bit 2ch PCM)
2.8224MHz、5.6448MHz (1bit 2ch DSD)
- **BALANCED** …………… デジタル・バランスケーブル
(特性インピーダンス 110Ω)
32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz (各16~24bit 2ch PCM)
- **COAXIAL 1, 2, 3** …… 75Ω同軸デジタル・ケーブル
32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz (各16~24bit 2ch PCM)
- **OPTICAL 1, 2** …… 光ファイバー
32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz
(各16~24bit 2ch PCM)
- **USB** ……………… USBタイプBコネクタ付ケーブル
44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz、352.8kHz、384kHz (各16~32bit 2ch PCM)
2.8224MHz、5.6448MHz、11.2896MHz (1bit 2ch DSD)
(11.2896MHz : ASIOのみ)

- USB端子を使用するにはPCにUSBドライバソフトをインストールする必要があります。
詳細は別紙のUSBユーティリティ・セットアップガイドをご覧ください。
- USBにはパソコン側から電源を供給するバスパワー(200mA以上)が必要です。

リアパネル(後面)



7 ANALOG OUTPUTS — アナログ出力端子

アナログ出力は、プリアンプの入力端子と接続します。

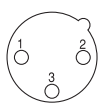
LINE(アンバランス)ジャック

通常のピンプラグ付オーディオケーブルで接続します。

BALANCED (バランス)コネクター

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクターです。アンプの入力コネクターがバランス入力を装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。

ピンの極性は、次のようになっています。



- ① : グラウンド
- ② : インパート(-)
- ③ : ノンインパート(+)

8 DIGITAL OUTPUTS — デジタル出力端子

6 デジタル入力端子へ接続したデジタル信号を出力します。

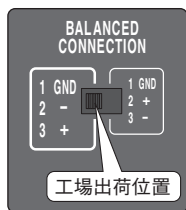
この端子にデジタルレコーダーを接続してデジタル録音することができます。(16ページ参照)
COAXIAL / OPTICAL

注意

HS-LINKで入力したSA-CDデジタル信号は、この出力端子には出力しないため録音することができません。

9 BALANCED CONNECTION — バランス出力端子の極性切替スイッチ

バランスでプリアンプやプリメインアンプに接続する場合、プリアンプやプリメインアンプ側の入力端子と②番/③番の極性が同じになるように⑦バランス出力端子の極性を切り替えるスイッチです。



⑦ バランス出力端子の極性

- 工場出荷時のスイッチ位置は、図のように向って左《②番+：ノン・インバート》側です。
- アクフェーズ製品（一部プロ機器は除く）のバランス入・出力端子は、全て《③番+：ノン・インバート》です。

接続するプリアンプやプリメインアンプのバランス入力端子が、《②番+：ノン・インバート》の場合のみ、スイッチを切り替えてください。

スイッチを切り替えると、バランス出力端子②番と③番の極性は、次のように変わります。

①番 GND：グラウンド	⇔	①番 GND：グラウンド
②番 -：インバート		②番 +：ノン・インバート
③番 +：ノン・インバート		③番 -：インバート

10 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■ 電源コードに付いているアース線の接続

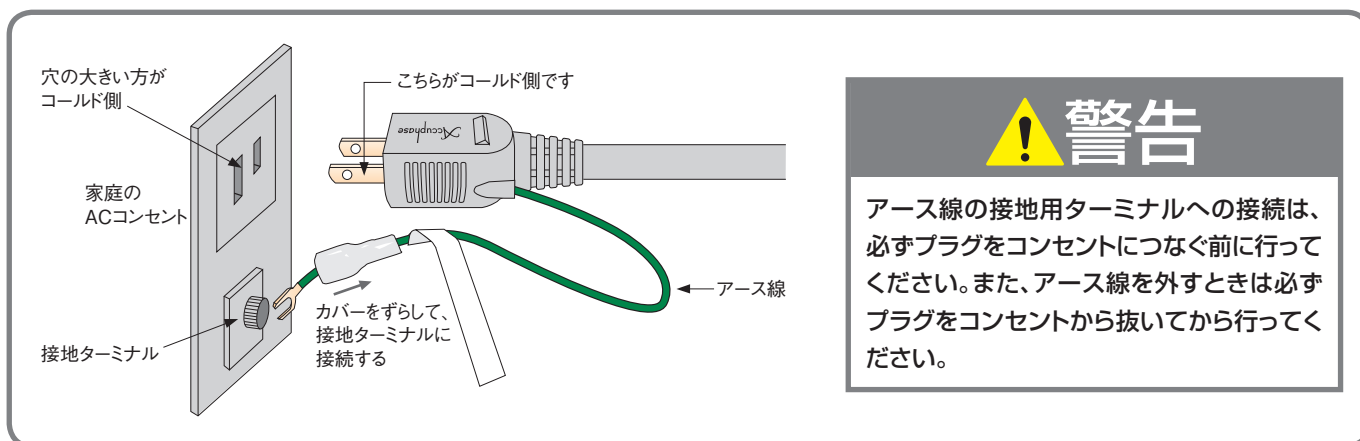
付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■ 入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。

(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



■ 電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

◆ 注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

リモート・コマンダー RC-120

- *RC-120は、DC-950には付属していません。(DP-950に付属)
- *RC-120では、DC-950の次の機能をコントロールすることができます。

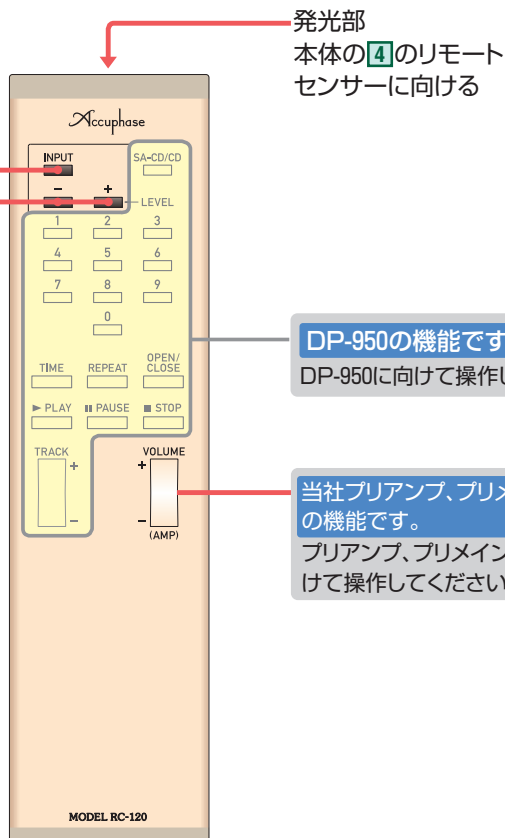
INPUT LEVEL + LEVEL -

INPUT

入力セクターボタン
DC-950の[2]と同じ(5, 11ページ)

LEVEL

出力レベル調整ボタン
DC-950の[3]と同じ(5ページ)



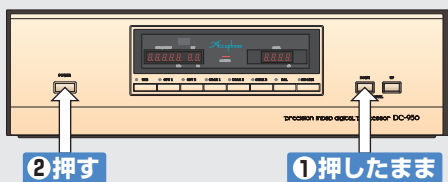
リモート・コマンダー RC-120による動作をON/OFFすることができます。

★(INPUT)や(LABEL)などリモート・コマンダーで動作する機器を2台以上使用する場合、本機のリモート・コマンダーによる動作をOFFにして複数の機器が同時に動作しないようにする機能です。

■リモート・コマンダー RC-120による動作をOFFにする場合

*工場出荷時の標準設定は『ON』になっています。

電源OFFから本体パネル上の[3] LEVEL (DOWN) ボタン
を押しながら電源スイッチをONします。



[5] ディスプレイ部

FREQUENCY ディスプレイ部 LEVEL ディスプレイ部
r - con OFF

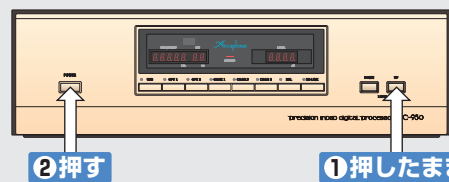
と3秒間表示

●OFF設定されると、リモート・コマンダー RC-120でDC-950
の機能をコントロールできなくなります。

■リモート・コマンダー RC-120による動作をONにする場合

電源OFFから本体パネル上の[3] LEVEL (UP) ボタン
を押しながら電源スイッチをONします。

出荷時の標準設定です。



[5] ディスプレイ部

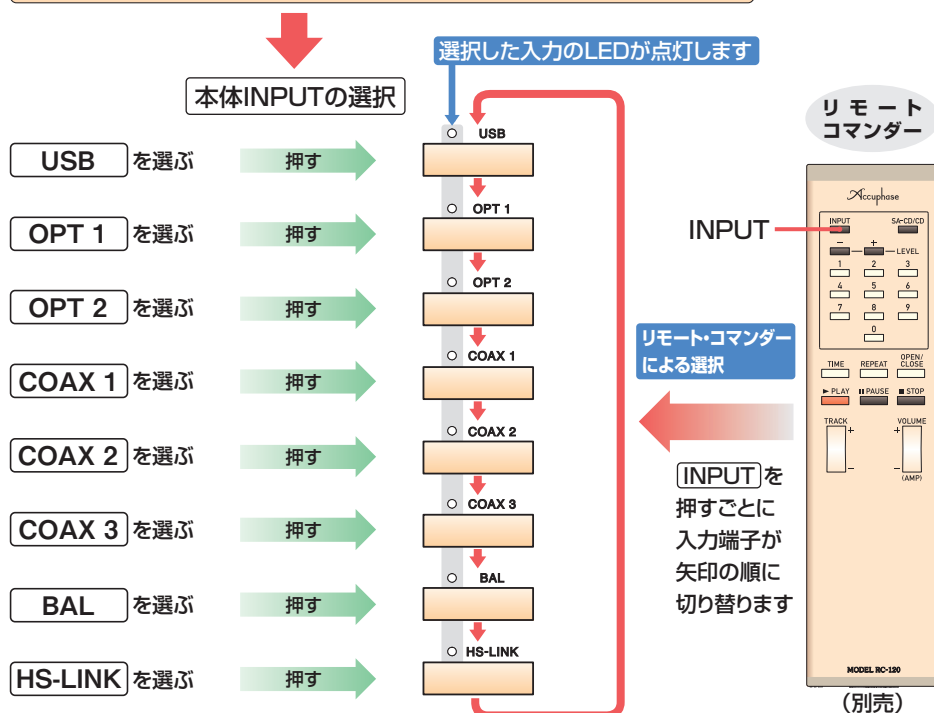
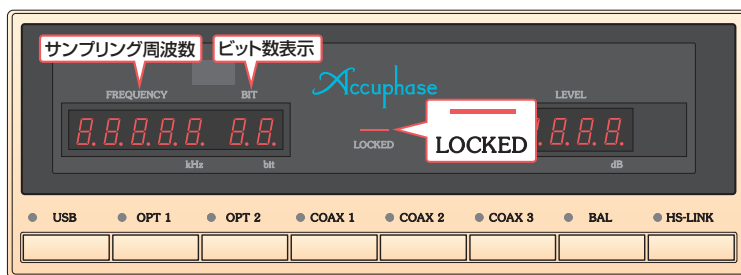
FREQUENCY ディスプレイ部 LEVEL ディスプレイ部
r - con ON

と3秒間表示

●ON設定されると、リモート・コマンダー RC-120でDC-950
の機能をコントロールできます。

5. 入カソースの選択

- 1 「接続機器のデジタル出力端子」と「本機のDIGITAL INPUTS端子」を接続します。
- 2 各機器の電源を入れます。
- 3 本体の入力セレクターボタンを押す、またはリモート・コマンドーの **INPUT** ボタンを押して、接続した外部入力機器を選択します。
 選択した入力ポジションのインジケーターが点灯します。入力信号をロックインすると《LOCKED》LEDが点灯しサンプリング周波数とビット数をFREQUENCY/ BITディスプレイに表示します。
- 4 接続機器の操作にて演奏をお楽しみ下さい。



各部の
動作説明

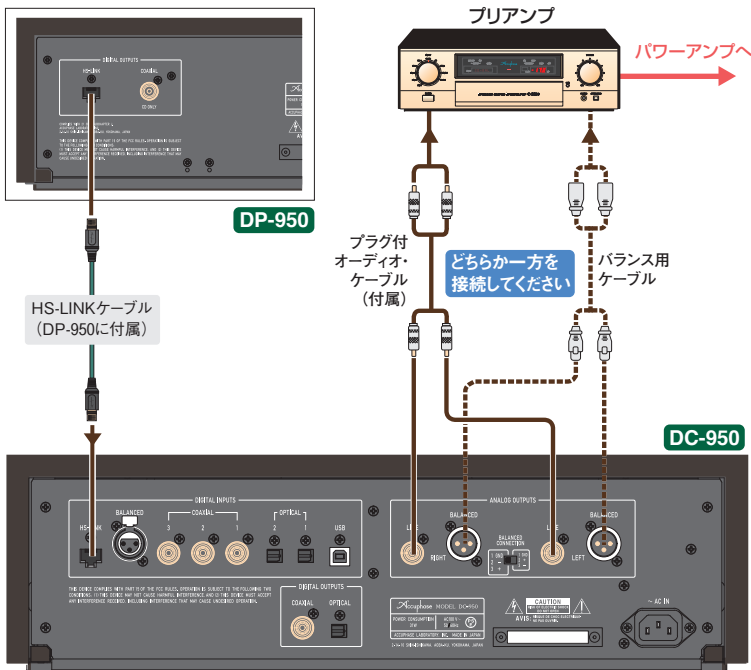
入カソース
の選択

6. 接続方法

DP-950(SA-CD/CD)の演奏

DP-950から、HS-LINKケーブルで接続します。
HS-LINKケーブル1本でSA-CDとCDの両信号を伝送することができます。

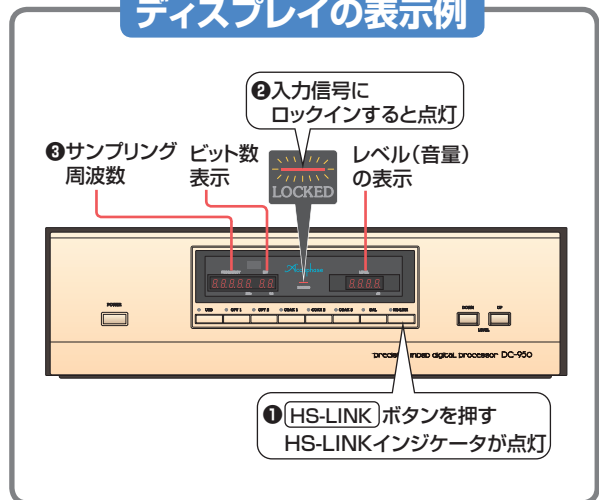
接続例



接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- ① 本機と共にDP-950、プリアンプ、パワーアンプの電源を“ON”にします。
- ② DC-950の入力セレクターで、接続した入力ポジション(HS-LINK)を選択します。
- ③ DP-950を演奏状態にして、プリアンプのVOLUMEを上げると演奏が聞こえてきます。

ディスプレイの表示例



DP-720, DP-700, DP-600, DP-550, DP-900, DP-800, DP-100, DP-85などHS-LINKを装備している機器も同様に接続可能です。

HS-LINKケーブルの接続

本体のHS-LINKコネクターのキャップを取り外し、HS-LINKケーブルのプラグを端子の形状に合わせて、カチッと音がするまでまっすぐに差し込みます。
抜くときは、プラグのロックレバーを押しながら、軽く引き抜いてください。

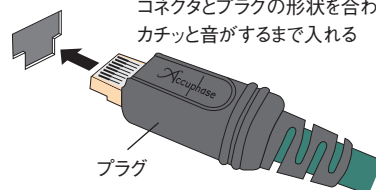
AHDL-15 (1.5m) 希望小売価格 20,000円(税別) *DP-950に付属



外したキャップは
保管してください

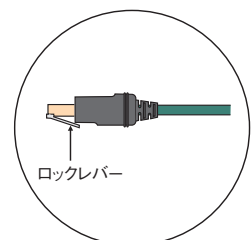
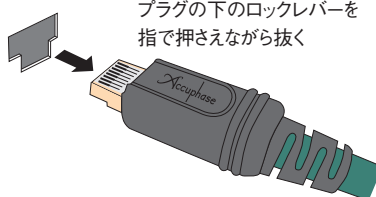
差すとき

コネクタとプラグの形状を合わせ
カチッと音がするまで入れる



抜くとき

プラグの下のロックレバーを
指で押さえながら抜く

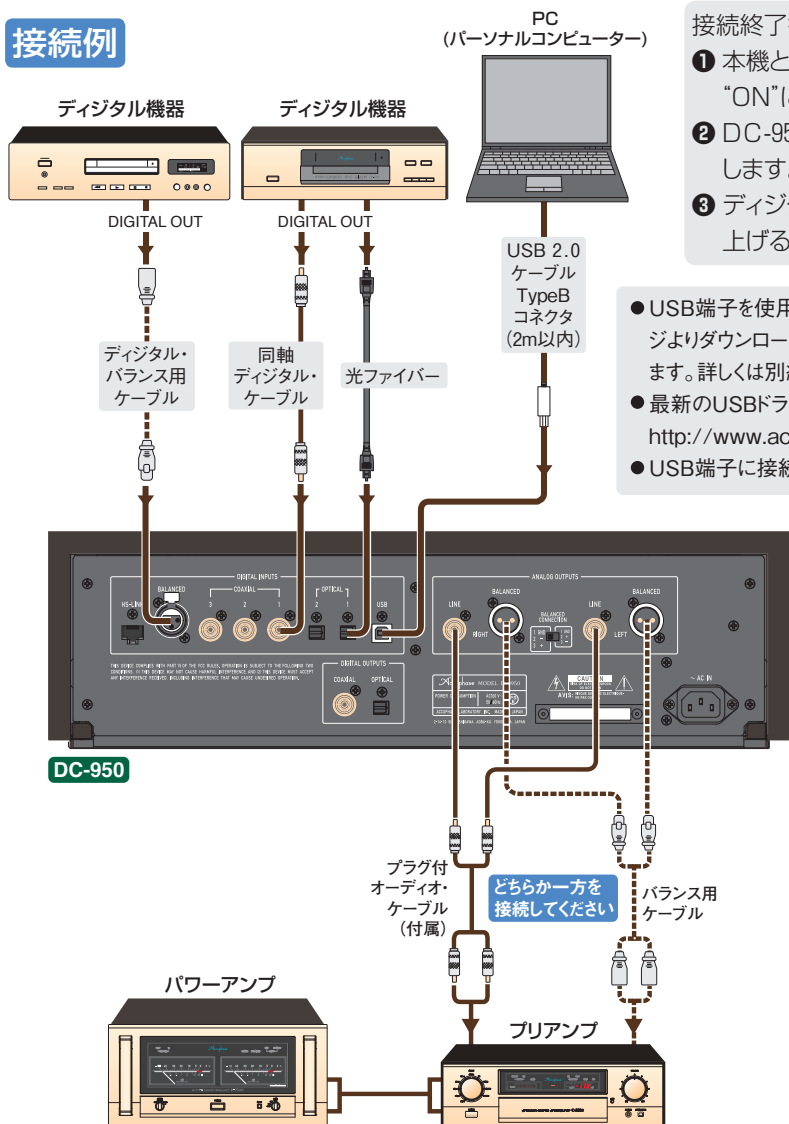


特注品 AHDL-30(3.0m) 希望小売価格 30,000円(税別)もごさいます。

CDなどをデジタル入力で演奏

DP-950(CD同軸出力)、FMチューナー(T-1100)、CDトランスポート、MDなどをデジタルで入力します。

接続例

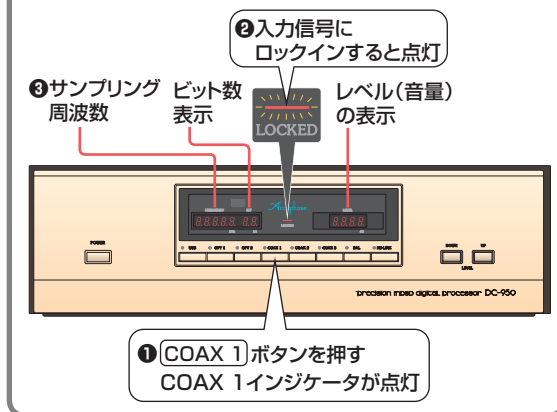


接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- 1 本機と共にデジタル機器、プリアンプ、パワーアンプの電源を“ON”にします。
- 2 DC-950の入力セクターで、接続した入力ポジションを選択します。
- 3 デジタル機器を演奏状態にして、プリアンプのVOLUMEを上げると演奏が聞こえてきます。

- USB端子を使用するには本機に付属のユーティリティCD、または当社ホームページよりダウンロードしたUSBドライバソフトウェアをPCにインストールする必要があります。詳しくは別紙のUSBユーティリティ・セットアップガイドを参照してください。
- 最新のUSBドライバソフトウェアは当社ホームページ <http://www.accuphase.co.jp/> 上でご案内いたします。
- USB端子に接続したPCの設定や操作方法はPCの取扱説明書をご覧ください。

ディスプレイの表示例



接続方法

接続ケーブル

BALANCED

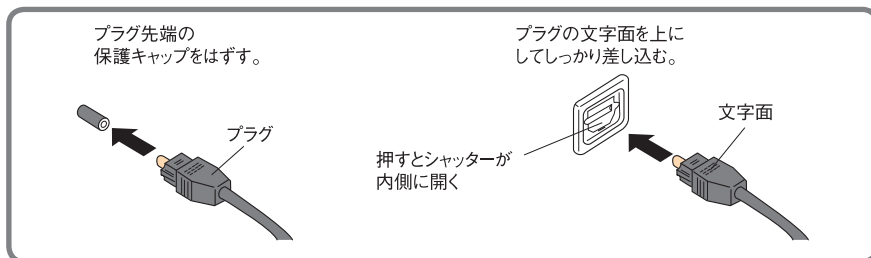
市販のデジタル・バランスケーブル(特性インピーダンス 110Ω)で、接続してください。

COAXIAL

ピンプラグ付75Ω同軸デジタルケーブルで接続してください。

OPTICAL

JEITA規格の光ファイバーで接続してください。



USB

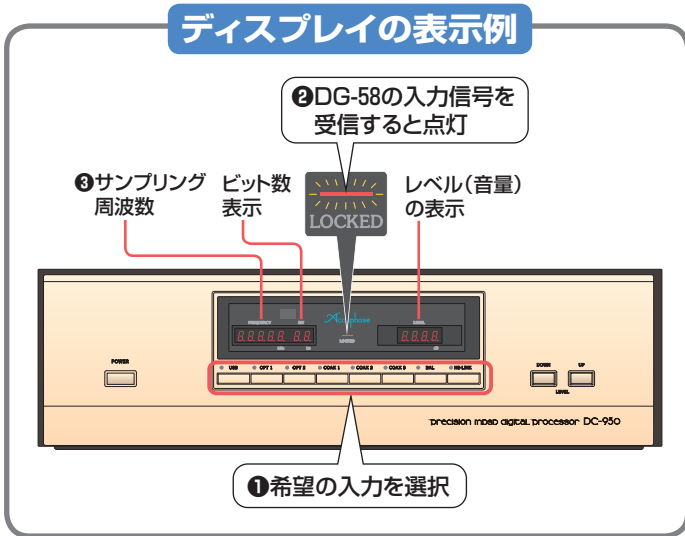
USBケーブルタイプBコネクタ側を接続してください。

注意

- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねて、決して強く曲げないでください。
- 光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は、大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行かない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

DG-58のデジタル接続例

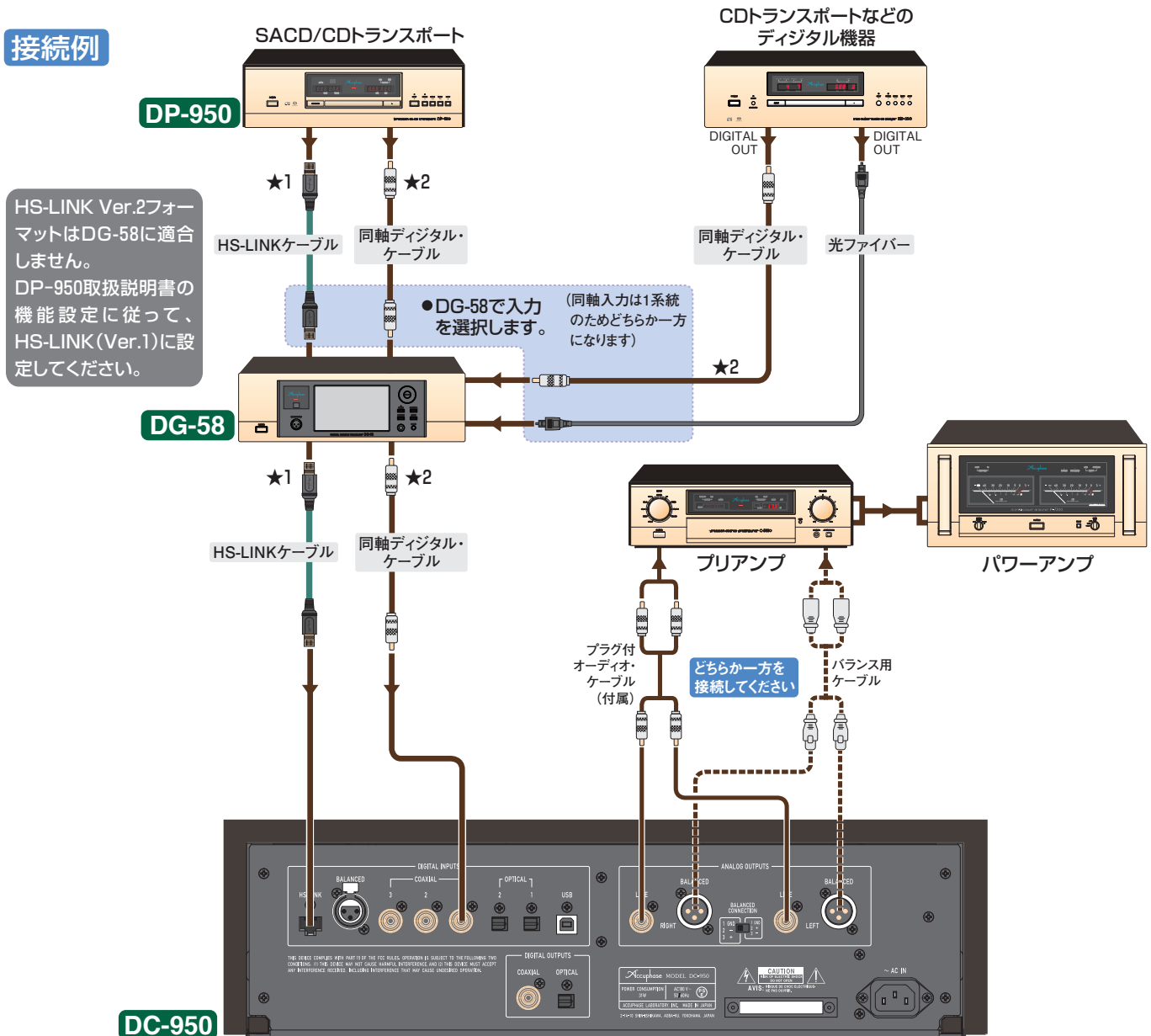
DG-58を接続して、デジタル信号での音場補正が可能になります。



DP-950、DG-58とDC-950の接続

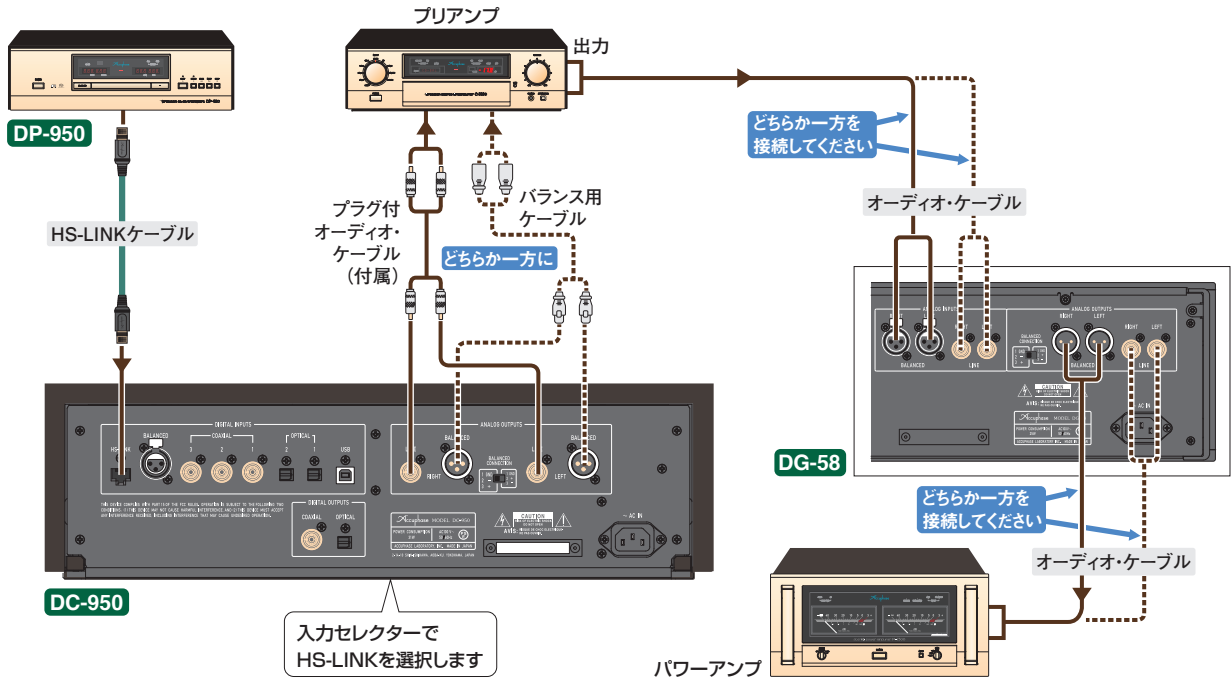
- ★1 SA-CD/CDを演奏する場合、DP-950、DG-58、DC-950を、HS-LINKで接続します。(SA-CD以外の演奏をする場合は、同軸デジタルケーブルでも接続できます。)
- ★2 DP-950とDG-58をCOAXIAL(同軸デジタルケーブル)で接続した場合、SA-CD信号は受信できません。

接続例

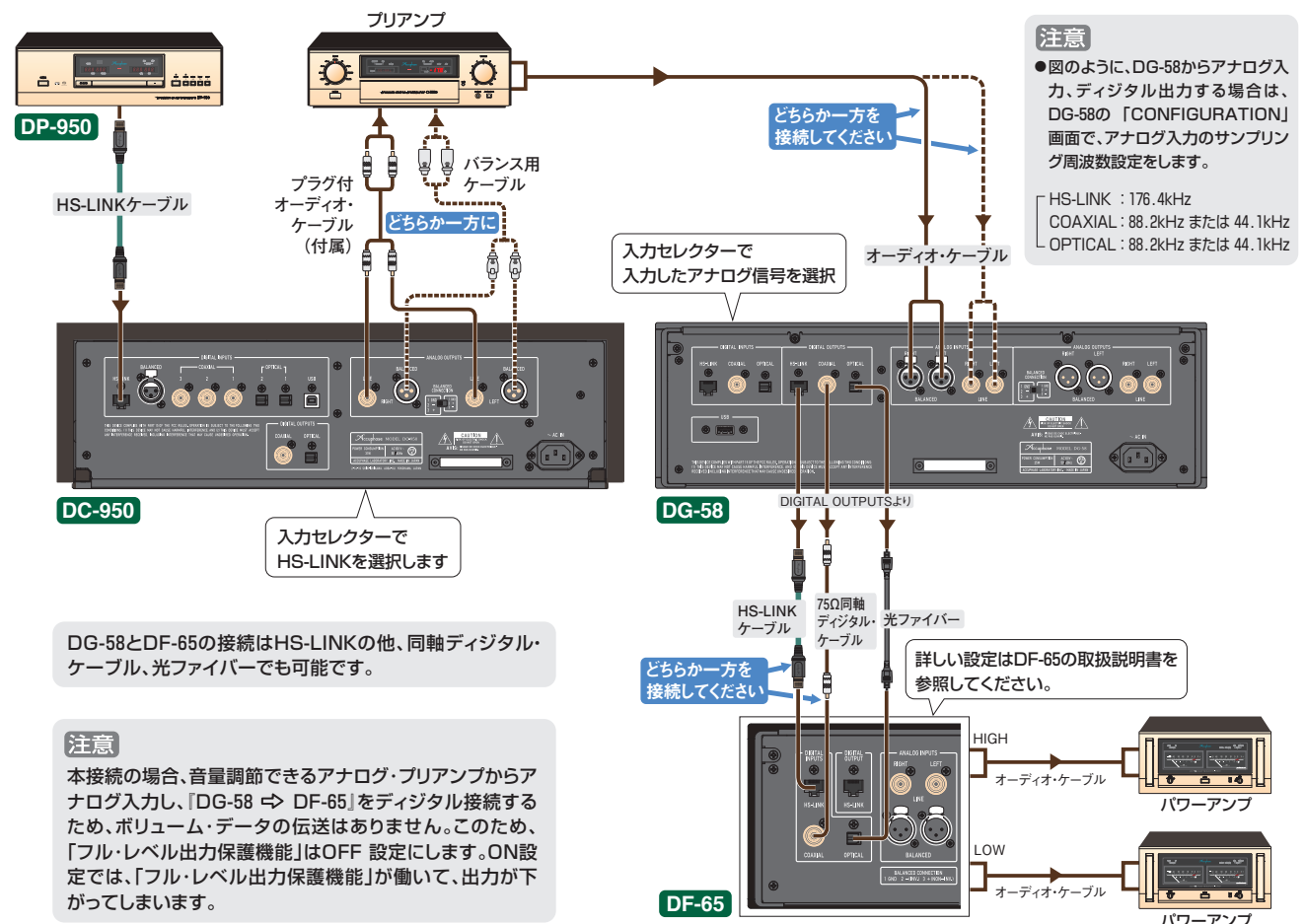


DG-58のアナログ接続例

●DG-58をプリアンプとパワーアンプの間に接続します。



さらにDF-65を接続する場合



接続方法

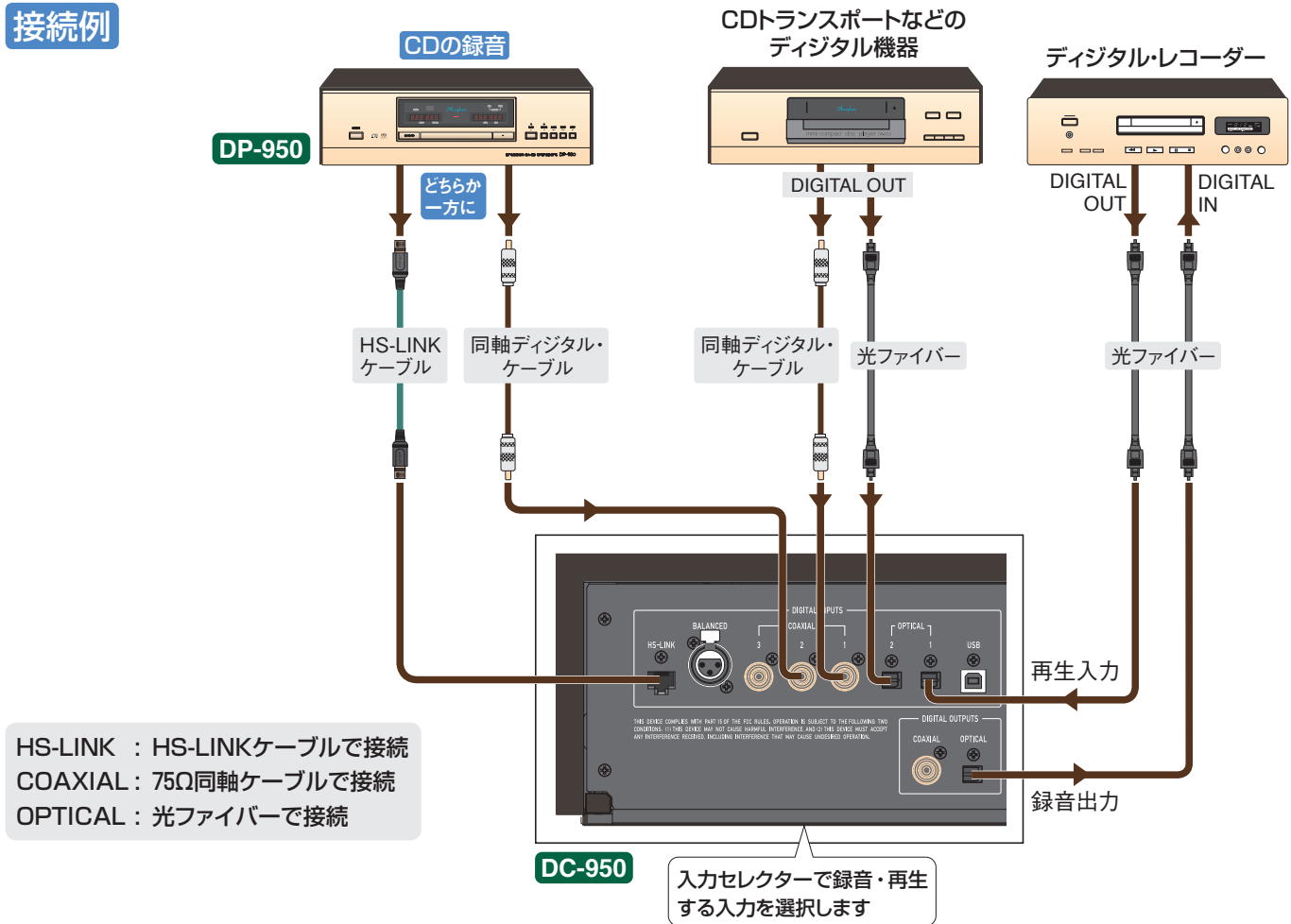
デジタル・レコーダーでの録音・再生の接続例

デジタル・レコーダーを接続して、SA-CD以外の録音・再生ができます。

*DIGITAL OUTPUTS端子には、入力セクターで選択した(現在演奏している)ソースが出力され、録音可能になります。但し、HS-LINK入力での録音はCD信号に限ります。

- 注意：**
- HS-LINKで入力したSA-CD信号は、DIGITAL OUTPUTS端子には出力しないため、デジタル録音はできません。アナログ録音の場合は、プリアンプのREC端子を使用してください。
 - DP-950のCD信号を録音する場合は、HS-LINKまたはCOAXIAL端子で接続してください。

接続例



再生:プレイバック

レコーダーを再生状態にして、入力セクターで接続したソース(入力端子)に合わせれば再生音を聴くことができます。

録音:レコーディング

次の手順で操作をしてください。

- ① 録音したいプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。
- ② この信号がDIGITAL OUTPUTS端子からレコーダーへ出力されます。
- ③ レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④ 本機のLEVELは、録音される音量には関係しません。

注意

- * デジタル録音の場合、SCMS (シリアルコピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDにデジタルで録音することはできません。
- * デジタル録音の場合、レコーダーの種類によって、録音側のサンプリング周波数を確認します。基本的には、ソース側とレコーダー側のサンプリング周波数が合わないと録音できません。
- サンプリング周波数96kHz以上のソースは、レコーダーが対応していないと録音できません。(光ファイバーは96kHzまでの対応)。

7. 保証特性

[保証特性はJEITA測定法CP-2402Aに準ずる]

デジタル入力

HS-LINK

コネクタ形状 : RJ-45
適合ケーブル : HS-LINK専用ケーブル

BALANCED

フォーマット : IEC 60958 AES-3準拠
適合ケーブル : 110Ωデジタル・バランスケーブル

COAXIAL

フォーマット : IEC 60958 AES-3準拠
適合ケーブル : 75Ω同軸デジタル・ケーブル

OPTICAL

フォーマット : JEITA CP-1212準拠
適合ケーブル : JEITA規格光ファイバー

USB

フォーマット : USB2.0/ハイスピード
(480Mbps)準拠
適合ケーブル : USB2.0ケーブル

サンプリング周波数

HS-LINK (HS-LINK Ver.2) 1ページ参照

32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz、352.8kHz、384kHz (各16~32bit 2ch PCM)
2.8224MHz、5.6448MHz (1bit 2ch DSD)

BALANCED

32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz (各16~24bit 2ch PCM)

COAXIAL

32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz (各16~24bit 2ch PCM)

OPTICAL

32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz
(各16~24bit 2ch PCM)

USB

44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、
192kHz、352.8kHz、384kHz (各16~32bit 2ch PCM)
2.8224MHz、5.6448MHz、11.2896MHz (1bit 2ch DSD)
(11.2896MHz : ASIOのみ)

デジタル出力

COAXIAL

フォーマット : IEC 60958準拠

OPTICAL

フォーマット : JEITA CP-1212準拠

D/Aコンバーター

8 MDSD方式(DSD信号)
8 MDS++方式(PCM信号)

周波数特性

0.5~50,000Hz +0,-3dB

全高調波ひずみ率 + 雑音

0.00045% (20~20,000Hz間)

S/N

122dB

ダイナミックレンジ

119dB

チャンネル・セパレーション

120dB (20~20,000Hz)

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED : 2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ
LINE : 2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0dB~-80dB (デジタル方式)

電 源

AC100V 50/60Hz

消費電力

31W

最大外形寸法

幅477mm × 高さ156mm × 奥行393mm

質 量

24.2kg

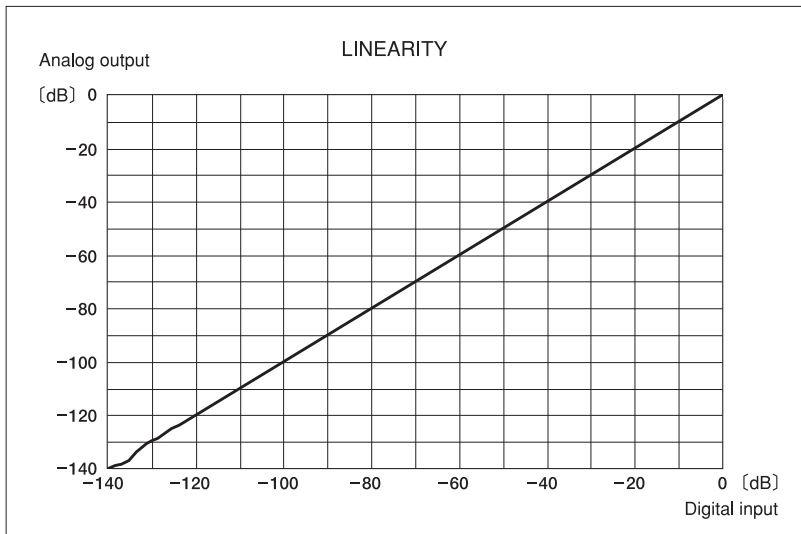
●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。
JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性—第3-2部:限度値—高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

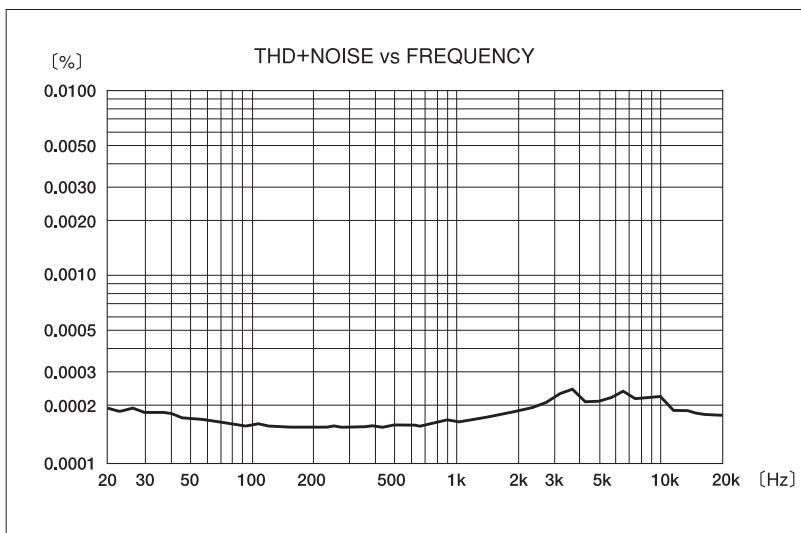
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

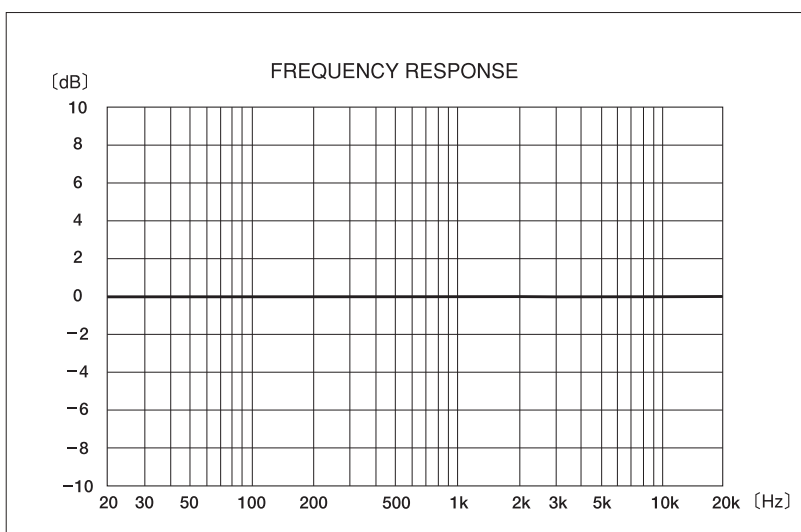
8. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)

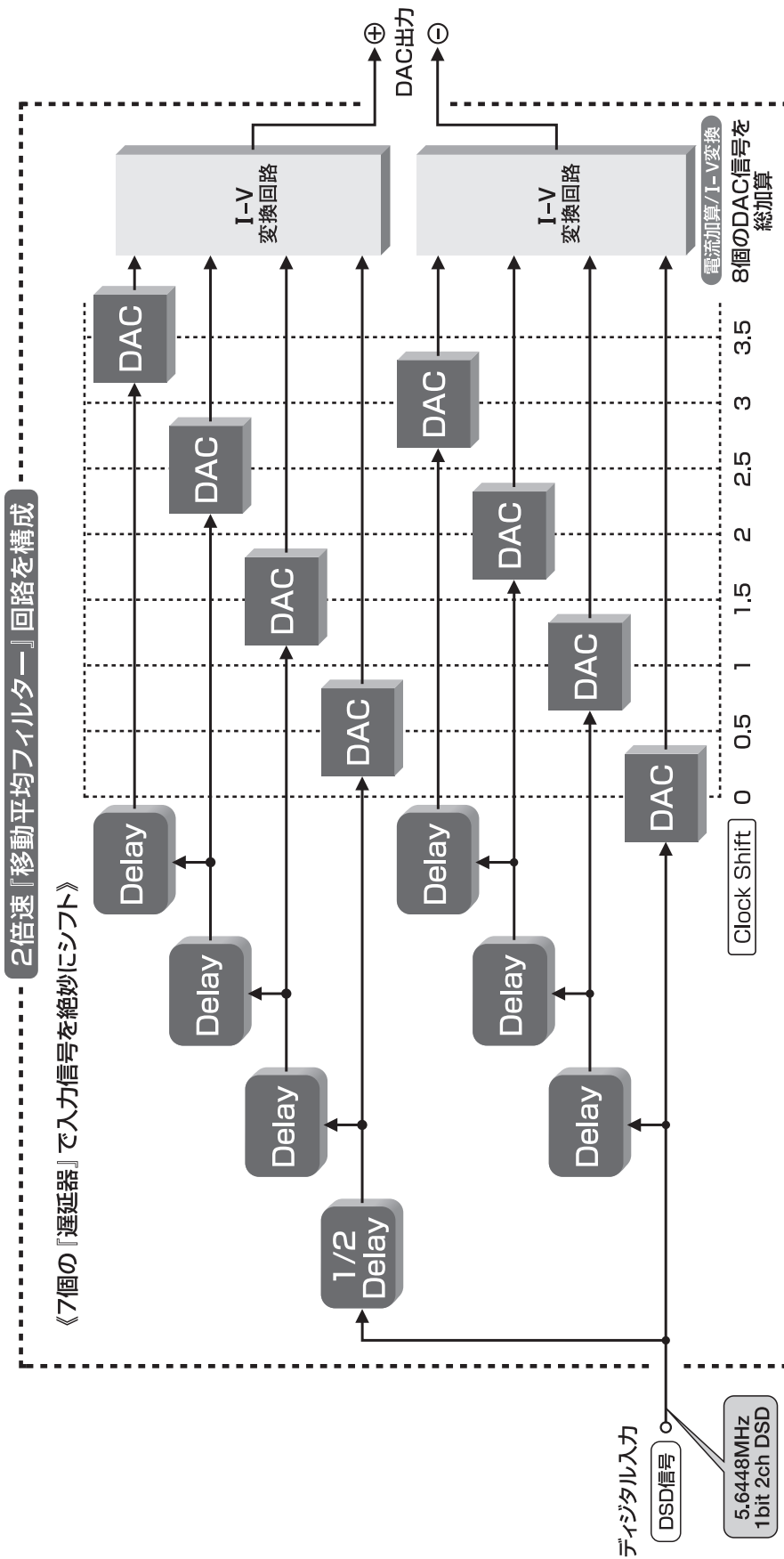


全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性



周波数特性

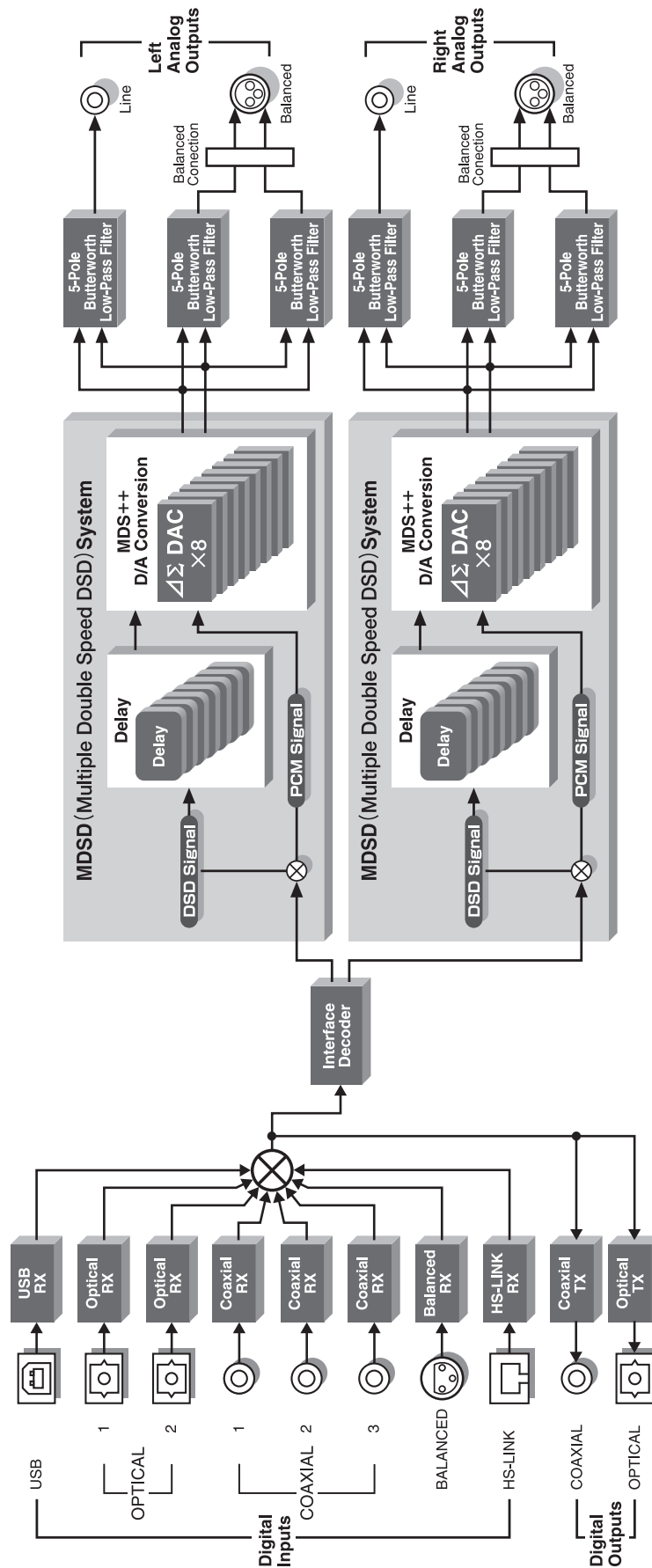
9. MDSD方式のブロック・ダイアグラム



特性グラフ

MDSD方式の
ブロックダイアグラム

10. ブロック・ダイアグラム



11. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

! **注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない (ディスプレイが点灯しない)

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)
- 電源コードが傷んでいませんか。
……………傷んでいる場合は危険ですから当社品質保証部に連絡ください。

音がでない。またはレベルが低い

- ソース側機器やアンプの電源は入っていますか。
- 入力セレクターを確認します。
- 接続コードは正しく接続されていますか。
- 本機の **3** [LEVEL] ボタンで出力レベルを確認します。
- 選択した入力のサンプリング周波数をロックインしていますか。(11~14ページ参照)

音が途切れたり雑音が出る

- 接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
- 光ファイバーはJEITA規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側から音が出ない

- アナログ出力コードを左右入れ替えます。
同じ側から音がでない …… アンプ側に原因が考えられます。
左右逆になる …………… 本機に原因が考えられます。

外部接続機器(デジタル)の出力がない

- 周波数をロックインしていますか。
《LOCKED》LEDの点灯を確認します。(11~14ページ参照)
- 光ファイバー、同軸などそれぞれ接続したケーブルをお確かめください。

リモート・コマンドで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は⊕(プラス)と⊖(マイナス)が正しく合っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビやインバータ照明等の近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。
- 電池ケースの接点は汚れていませんか。
- リモート・コマンド動作ON/OFFの設定を確認します。(10ページ)

ブロック・
ダイアグラム

故障かな?と
思われるときは

12. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には登録(『品質保証書』の発行が)できないことがあります。
 - *ご購入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意 保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。**
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご購入日、ご購入店
- ご住所、氏名、電話番号
- 故障状況：できるだけ詳しく

* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)

<http://www.accuphase.co.jp/>